

【教育に関する基本方針】

平成 28 年 4 月、本校は義務教育学校として義務教育 9 年間の一貫教育を行う学校として開校した。また、併設する保育園・幼稚園との連携を強固することにより、次世代の日本や地域を支える人材を 15 年間の一貫教育で育てるという使命も担っている。

また、子どもたちが過ごす未来が今までとは異なり、不安定さ (Volatility)、不確実さ (Uncertainty)、複雑さ (Complexity)、曖昧さ (Ambiguity) に満ちた VUCA 時代であることを考え、次世代で身に付けるべき資質・能力を再検討していくことが不可欠である。

そこで、現在の社会で若者の克服すべき課題について、品川コミュニティ・スクールである校区教育協働委員会で熟議を重ねてきた。

また、義務教育学校という特色を最大限生かしながら目の前にいる児童・生徒に必要な教育活動を教職員と共に検討してきた。その過程から、家庭や地域が一体となって目指すことができる児童・生徒像を「未来を創造する協働的リーダーシップと困難を克服するレジリエンスを身に付けた児童・生徒」と定めた。この理想とする児童・生徒像を追求するために 9 年間の一貫教育を通して身に付けるべき資質・能力を次のように定め、これを達成するために教育課程を編成する。

- 自ら考え行動する主体性
- 自分の考えを表現する力
- 目標達成を導く自己コントロール力
- 互いに理解し合うコミュニケーション能力
- 将来の土台を築くよい習慣

そして、義務教育学校 9 年間の一貫教育を児童・生徒の自己を確立していく過程として、3 段階を設定し、第 1 段階「自分と向き合う」→第 2 段階「他者と向き合う」→第 3 段階「将来や社会と向き合う」とした。児童・生徒が安全・安心して 9 年間の教育活動に取り組んでいくことにより、自己の確立を図っていく。

さらに、2020 年から 10 年先までを予測した教育課程編成における中長期プラン (HYM INSPIRE PLAN 2020) を策定した。この中長期プランは、「教育」「経営」「ソーシャルサポート」の 3 つのカテゴリーからなり、このプランを実施することにより学校全体を鼓舞し活性化を図る。具体的には、次の通りである。

教育では、「義務教育学校の特色を生かした一貫教育の推進」「保幼小連携と一貫教育を円滑に接続した 15 年間の教育の実現」「SDG s ゴール 4 の達成」の 3 点である。

経営では、「ピラミッド型と役職を超えたフラット型の融合組織による働き方ルネッサンスの実現」「教職員の年齢構成の変化に対応するための人材育成の強化」「ダイバシティとインクルージョンを生かした教職員チームの活性化」の 3 点である。ソーシャルサポートでは、「品川コミュニティ・スクールの制度を活用した地域と共にある学校の実現」「学校支援地域本部主催によるオーダーメイド型教育の実現」「支援される児童生徒から学校を支援する立場へのローテーション構築」の 3 点である。

豊葉の杜学園校長 二宮 淳